

# 中村延子 プロフィール

**1981年 9月2日 中野区生まれ**

**1994年 東京文化小学校卒業**

小学校5年生の冬、ブラジルで(社)CISVの11歳キャンプに1ヵ月参加し、9カ国の子どもたちと異文化交流を体験。この頃から国際社会に興味を持つ。

**1997年 東京文化中学校卒業**

15歳で単身アメリカに渡る決意。

**2001年 米国アニーライトスクール高等部卒業**

在学中、夏休みを利用して宝仙学園幼稚園でボランティアをし、卒業必須活動である50時間のコミュニティーサービスを、自分の出身地である中野で実施。1912年から続いている伝統行事のメイデーでは、高校生活での活動が評価され卒業生から1人選ばれるメイクイーンに選ばれた。

**2005年 米国クレアモント・ピッツァーカレッジ卒業**

在学中、上智大学比較文化学部にてサマースクール受講。  
2004年 北京大学医学部へ短期留学。



大学卒業式▲

**2005年 民間企業に就職**

株式会社ケン・コーポレーションから業務委託を受ける総務代行会社に就職。外国人賃貸住宅管理部業務の一端を担う。

**2009年 衆議院議員手塚よしお秘書**

地元事務所に勤務。

**2010年 参議院議員蓮舫秘書**

参議院選挙にて、秘書派遣で蓮舫大臣の選挙事務所スタッフとして奮闘。その延長線上で事業仕分けのお手伝いも含め、蓮舫事務所に出向。

**2011年 中野区議会議員 初当選**

1,530票をいただき初当選。建設委員会、震災対策特別委員会を歴任。現在は、厚生委員会、地域支え合い推進特別委員会副委員長を務める。民主党東京都連青年委員会交流局副委員長、中野区国際交流協会評議員。



▲兄と2人で  
祖母の故郷・広島県福山市にて



▲宝仙幼稚園でのボランティア活動



▲メイデーでのスピーチ



▲北京大学に短期留学



▲2011年4月中野区議選



▲中野区議会民主党議員団

**趣味** 音楽、料理、旅行、  
フラワーアレンジメント  
家族：父、母、愛犬（パピヨン）  
おとめ座／B型／酉年

中野区  
議会議員

# 中村延子

# 区議会レポート

発行／中野区議会民主党議員団

中野区中野4-8-1 Phone: 03-3228-8876 Fax: 03-3389-8718

編集／中村延子事務所

中野区弥生町4-36-6-402 Phone: 080-6533-9450 Fax: 03-3380-3150  
email: n@nakamuranobuko.jp

Vol.10

平成27年1月号



## 中村延子の想い

「あなたの政治を描きなさい」——

これは米国の高校在学中、アメリカ史の授業で初めて出た宿題です。私はその意味がわからず、先生に「私の政治」とは何かを質問したところ、「あなたの政治とは、あなたの生活のことを指しているのよ。あなたと関わりがあることや人はすべてあなたの政治なのよ。家族関係も友達関係もすべて政治なの」とおっしゃいました。

政治とは生活そのものである、と教えられました。

政治は身近なものであり、誰もが無関係ではられないものです。それでも中々投票率があがらない、若者が政治に無関心でいられるのは、自分に無関係なものだと思い込んでいるからではないでしょうか。

イチ納税者の立場から、税金のムダ遣いに無視が出来なくて、人生を決断したのが4年前の事。多くの方から、それまでの政治をただすチャンスを与えていただきました。



NO! 選挙カー

騒音・渋滞の原因となり、税金まで使われる選挙カーは一切使用しません。

新人議員の突破力で、  
変えられたことがたくさんありました。  
議会の壁にはね返されたことはその何倍もありました。

政治姿勢として、  
利権・特権・パーティー券に頼ることなく、しがらみゼロで  
貫きとおせたことは、間違いなくこれまでの政治を大きく  
変える一石になれたと思っています。

区民の注目度が低い中で、  
古い政治文化が行われています。  
お給料が下がっても、ちゃんと財布からとられる  
大事なお金の行方を、  
無関係ではられない中野区の政治を、  
是非とも厳しい視線で監視していただけたら  
幸いです。

これからも、全力で責任を  
果たしていく事をお約束します。

中野区議会議員

中村 延子





平成25年第1回定例会本会議にて一般質問

### 行政改革

#### ■ 外部評価委員会について

中野区が行っている行政評価の手法、外部評価。土日開催やインターネット中継の導入、フルコスト計算の取り入れなど、緊張感があり透明性の高い行政評価を目指すよう提案。

#### ■ 民間コンサル会社を使った光熱水費の削減

電気料金がアンペア数を下げると基本料金が安くなるのと同じく、ガス料金も一定の基準に達していれば、基本料金が安くなる可能性がある。コンサルティング会社に調査依頼をしたところ、ほとんどの区有施設でガス料金の削減が可能だった。光熱水費が増額する中、民間コンサルを使った光熱水費の削減を提案。

### 国際交流

#### ■ 友好都市・姉妹都市交流について

中野区は中国北京市西城区と友好都市を、韓国ソウル市陽川区と姉妹都市締結をしている。中野区国際交流協会の事業として北京市西城区とは少年野球交流をしているが、2年連続で国家間の情勢や環境などの影響により子どもたちが集まらず中止。韓国ソウル市ヤンチョン区とはいまだ交流内容が決まっていない状況。国際交流事業を区や区民のために生かすことが、区

民の理解を得ることになる。友好都市・姉妹都市交流を、グローバル人材を育てるための教育につなげていくべきと提案。

#### ■ グローバル人材を育てるための教育について

日本人の英語力は世界の子どもたちと比べ低い水準。そんな中、平成22年から必修となった小学校5年生・6年生での外国語活動。小さい頃から英語力の確保のため、地域差のないALTの質、人材確保のため協力員登録などを提案。また、「中野四季の都市」に入って来た大学の外国人留学生と中野区内の小中学校との交流事業を拡大していく事を提案。

#### ■ 外国人のための情報発信について

災害時、言葉が通じない外国人は情報弱者になる。彼らが災害時にパニックを起こしてしまえば、避難所運営にも支障が出かねない。中野区国際交流協会に頼るだけではなく、区として外国人のために正確な情報提供を行う体制作りを迅速に進める必要があると提案。



中野区議会平成24年第1回定例会予算特別委員会にて民主党議員団を代表して総括質疑を行う

### 女性特有のがん対策

#### ■ 検診受診率の向上施策について

子宮頸がんは唯一予防が出来るガンであり、検診による早期発見で子宮も温存できる為、検診率向上は重要な課題。欧米では子宮頸がん検診の受診率は70～80%あるのに対し、日本では24%、中野区では21%。検診率向上のため、未受診者に対する受診勧奨を提案。

#### ■ 細胞診とウイルス検査の併用検診導入について

子宮頸がんはヒトパピロマーウイルス感染が原因となる細胞異形成。鳥根県出雲市など、先進的な自治体では、従来の細胞診とウイルス検査の併用検診を進めている。ウイルス検査が陰性だった場合、隔年から3年間隔に検診頻度を下げることが出来るため、受診者にとっても負担が減る。長期的にみると自治体にとっても財政負担が減る。環境が整った場合、早急に併用検診を導入すべきと提案。



平成26年第3回定例会決算特別委員会にて総括質疑を行う

### ワークライフバランス

#### ■ 少子化対策について

女性だけが家事や育児を行いながら社会で活躍するという事は不可能であり、少子化対策には男性の育児参加が必要不可欠。男性が育児参加できる風土を作っていくべきと提案。

#### ■ 男女共同参画施策について

中野区が目指す全員参加型社会の実現のためには、あらゆる障害を排除する必要がある。妊娠、出産での解雇や雇い止め、精神的、肉体的なハラ

メント「マタニティハラスメント」調査では、約4人に1人が経験したとの結果が出た。産みたいと願う人が障害なくいつでも産める社会にしていける必要がある。啓発とともに子育て支援の充実を提案。

#### ■ セクハラについて

2014年6月に都議会本会議で発せられたセクハラ野次。この発言は、品位を欠くだけでなく、国際的にも日本の性差別に対する意識の低さを露呈する結果になってしまった。オリンピック・パラリンピックを控える東京で起きてしまった事は大変遺憾であり、国際社会への信頼回復が急務。セクハラを根絶していく姿勢が必要であり、社会全体で取り組まなければいけない課題であると問題提起。

### その他

#### ■ 防災教育について

東日本大震災以降、仙台市では防災教育の見直しが行われてきている。平日の日中、地域に残っているのは中学生であり、大きな人材。中野区でも中学生の防災隊が消防団合同訓練や総合防災訓練などに参加をしている。学校独自の防災隊を組織している中学校を全区へ広げていくべきと提案。

#### ■ 危機管理について

地方自治体への暴力行為がさまざまな要因により行われてきており、後を絶たない。行政への不満や逆恨みから暴力行為が行われ、職員は危険と隣り合わせで仕事をしている。2013年宝塚市で起きた火災瓶事件を受け、中野区では税務分野で危機管理訓練を行った。全庁的に危機管理の当事者意識を持つべきであり、税務分野が学んだ教訓やポイントを全部署で共有する必要があると提案。



平成26年第2回定例会本会議にて一般質問

### 2011年7月 第23回日米青年政治指導者交流プログラム、訪米団に参加

日米両国の若手政治指導者の交流を目的として、1973年から米国青年政治指導者会議と日本国際交流センターの共催で実施。日本からは地方議会議員、国会議員秘書や政党スタッフなどが訪米し、政治、経済、社会の課題に関して意見を交換している。全国から6名のみ参加可能な超党派プログラム参加者に選出された。



▲日米青年政治指導者交流プログラム訪米

### 民主党東京都連青年委員会交流局副局长(国際交流担当)

フィリピン国会議員との懇談会、日米青年政治指導者交流プログラム訪日団を青年委員会で受け入れ等をアレンジ。被災地支援事業として2012年には石巻にボランティアへ、2013年には土砂災害後に大島にボランティアへ出向く。



▲日米青年政治指導者交流プログラム受け入れ

▲青年委員会で石巻市へ被災地ボランティア



▲大島ボランティア

### 大手企業の女性セミナーで講師をつとめる

某大手企業労働組合の「女性セミナー」にて「ワークライフバランス」をテーマに政治家になった理由や女性政治家としての仕事や苦悩、モチベーション等について講演。

ワークライフバランス講演▶



### 2014年7月 民主党訪中団に青年議員団の一員として参加

民主党青年委員会のメンバーからなる若手議員団に4名の国会議員、7名の全国から集まった地方議員とともに参加。秦宜智共青团中央書記との会談の中で、中国共産党の青年組織である共青团とのパイプを作り、政党間の青年交流の道筋をつける事が出来た。この他、天津市副市長や大学関係者、全国青年連合会委員の方々等と懇談。



▲全国青年連合委員会との懇談会

# 政策

## 1 税金のムダづかいを正す！ 中野区でも事業仕分けの 手法を行政評価に！

まずはパブリックサーバントである議員や役人の特権からメスを入れることで、無駄に使われている税金を取り戻し、もっと有効に税金を使えるシステム作りをします。中野区でも事業仕分けの手法を取り入れた行政評価を公開で実施し、採算のとれていない事業や区民のために行われていない事業など区の仕事をゼロベースで見直します。民間では考えられないような役所の特権を明らかにし、既得権と前例踏襲を打ち破ります。



## 2 グローバル人材を 育てるための教育を！

国内外を問わず、外国人の生活や文化、価値観などの多様性に触れ、認め合うことは、世界の国や地域の人々と理解し良好な関係を構築や継続していく上で重要です。形式的な国際交流にとどまらず、区民、特にこれからの時代を担う子どもたちが多様な文化と触れ合う機会を今まで以上に作ります。近年グローバル化が急速に進み、これからの世代は、世界との競争は更に激しくなっています。調査で明らかになった現在の日本人の子ども英語力は世界でもとても低い順位となっています。平成22年度から小学校5・6年生で必修化された外国語活動。小学校での外国語活動の質の確保と向上を目指します。



## 3 男女ともに輝ける 社会の実現を！



中野区が目指す、全員参加型社会を作っていくためには、区民一人ひとりのワーク・ライフ・バランスが欠かせません。その実現には、男性の育児参加が必要不可欠ですが、男性の育児休業取得率は1.89%ととても低い水準にとどまっています。性別に関わらず、誰もが輝ける社会の実現を目指します。一方、女性が社会で活躍するために必要な性差を踏まえた包括的な健康支援はまだまだ不十分。女性の健康問題には、働く世代に多い子宮内膜症や不妊、産前産後の心身のケア、思春期の健康、虐待や性暴力、女性のがん対策、更年期、老年期の認知症や骨粗鬆症予防などが含まれ、かつこれらはひとりの女性の一生の健康問題としてつながっているため、継続的で包括的な支援が必要です。ひとりひとりの女性が社会参画できるための基盤である女性の健康についての対策を進めます。

## 4 地域力を活かした 出産・子育て支援を！



これからの未来を支えていく子どもたちが健全に育っていくためには、まず子育て世代へのサポートと環境を整えていく必要があります。他自治体で先進的に取り組まれている子宮頸がんの検診方法を従来の細胞検診のみから、ウィルス検診との併用を目指します。孤立しやすい子育て中の親支援を行い、当事者の負担を軽減する取り組みを推進します。地域での居場所の確保・子育てコミュニティの活性化、アクティブシニアの活用を支援します。現在、深刻な状況にある子どもの虐待を防止し、地域社会全体で子どもを守ります。